

ありがとう便り

農園の人々や作業風景、四季折々の景色や出来事など
北海道は仁木町で繰り上げられるサンユー農産の裏側をご紹介します。



6月 雑草の手入れ

雨が多くなると苗と一緒に「マルチ」の中に雑草もはえてきます。植物は根も長く張ってから茎をのびやすいため、茎がのびてしまうと、抜くのが大変になります。そこでまだ小さいうちに抜くことで、雑草が伸びないようにします。4万株ほどあるシソ全行なうため、雑草とりはとて大変な作業です。防除も雑草も農薬を使用すれば、簡単に解決しますが、安心安全な有機栽培にこだわるコロボックルの里農園では、一枚一枚人の手で手入れを行なっています。



5月 マルチ貼り

2度目の耕起から1週間あり、肥料がなじんだら、もう1度畑をおこしながら「マルチ」という穴のあいた黒いビニールを貼ります。「マルチ」は保温と雑草の予防になりますので必ず貼ります。



定植(苗植え)

5月中旬になると、いよいよ定植です。「マルチ」にあいた穴の中にたっぷり水を入れてから小さな苗を植えていきます。



4月 野菜ハウスのビニール貼り

雪が溶けたハウスにビニールを張りつけます。種まき。このようにセルポットにゴマ粒大のシソの種をまく。



そして、ハウスの中で温度管理しながらこまめに水をまきます。やがてゴマ粒大の種から小さなシソが出てきます。

畑のゴミ拾い

冬の間に落ちてきたゴミや、冬の間に分解できなかった作物の一部を拾います。



畑の耕起

トラクターで畑をおこして、土の中に空気を入れます。しっかり深目におこすことで越冬した虫を深い土中に埋めこみ被害をへらします。



肥料まき

畑をおこしたら必要な肥料をまきます。まいたらまた、トラクターで畑をおこします。(2度目の耕起)



コロボックルの里農園の春と夏のしごと

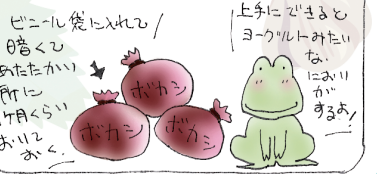
コロボックルの里農園には、サクランボなどの果樹の他、約4ヘクタールの有機栽培園地があります。今回は、有機栽培園地の春と夏の仕事について、ご紹介いたします。

2月 広い畑に、何をどれだけ植えようか... 今年の作づけを考えます。



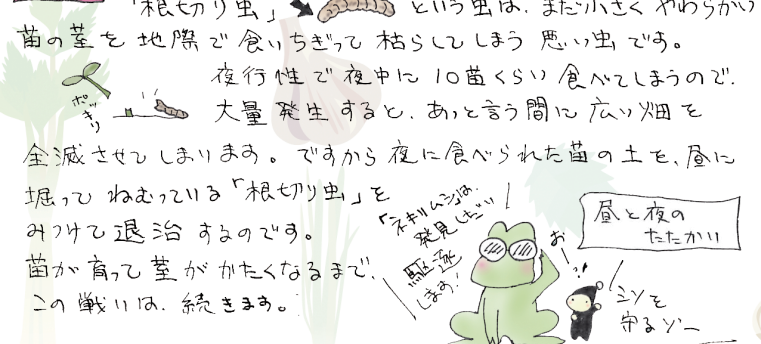
3月 肥料づくり 「ボカシ肥料」とおぼれる 厩肥 醗酵肥料を使います。

作り方は、米カス・油カス・魚カス・ホタテの貝からなどの有機質肥料に、微生物と水を加え、1ヶ月程度、醗酵させます。「ボカシ肥料」作りは、良質な土づくりの要ですので、とても大切な仕事なのです。



防除

定植が終わったら、虫との戦いが始まります。「根切り虫」という虫は、また小さくやわらかい苗の茎を地際で食いちぎって枯らしこしまう悪い虫です。夜行性で夜中に10苗くらい食べてしまうので、大量発生すると、あという間に広い畑を全滅させてしまします。ですから夜に食べられた苗の土を、昼に掘ってぬめっている「根切り虫」をみつけて退治するのです。苗が育って茎が太くなるまで、この戦いは、続きます。



農園だより

気象庁は、毎年2月頃に、6月から8月の夏全体を予想する「暖候期予報」を発表します。これによると、今年は日本中が暑い夏になるとの見通しが出ていました。より直近の5月24日に出た3か月予報(6月〜8月)でも、平年よりも高い気温になる確率が50%以上との予想なので、今年の夏は、暑さの覚悟をしなければならぬようです。

- この3か月予報ですが、月単位でも出ていますのでそれを見ると、
- 6月.. 西日本が平年よりも気温が高くなる
- 7月.. 北の本が平年並みか高い (それ以外の地域は平年並み)
- 8月.. 全国的に平年よりも高い

とのことです。ちなみに、8月の平年の最高気温は、東京..30.8℃、名古屋..32.8℃、大阪..33.4℃とのことです。これよりも高いということは、毎日が熱中症のような状況になりそうです。

熱中症にならないためには、水分補給が非常に重要です。特に、汗によって排出されたカリウムなどのミネラル、塩分や糖分を同時に補う必要があります。さて、このような状況の場合、皆さんは何を飲みますか? お水よりはスポーツドリンクのほうが良いのですが、最も適した飲み物はシソジュースです。シソジュースは、熱中症で欠乏したものを補う効果があるだけでなく、日焼けによるシミ対策としても効果があるため、夏の農作業にはうってつけなのです。今年の夏は暑くなりそうですが、夏バテにならずに健康に過ごすためにも、ぜひシソジュースを試してみてください!

最後に、7月には日本橋高島屋で催事を行う予定です。予定では、サクランボを持っていく予定ですので、お誘いあわせの上、ぜひ夏の味覚を楽しんでください。それでは、よい夏をお過ごしください!



今回は、さくらんぼの樹の管理についてのお話です

毎年7月に、皆様にお届けしているサクランボ。収穫期間は1品種につき2週間程度です。サンユー農産では、早い品種と遅い品種を植えることで、できるだけ長く、サクランボをご提供できるようにしておりますが、それでも収穫期間は1か月程度です。しかしながら、サクランボの果樹の管理は、1年間にわたって行います。今回は、どうやって最高のサクランボをご提供しているのかを、季節ごとにご紹介いたします！

冬 (12月~3月)：枝の剪定

「剪定」とは、枝を切ることで、樹木を整えることを言います。おいしいサクランボを作るためには、この剪定作業が最も重要です。この剪定作業を正しく行うことで、風通しや日当たりがよくなり、枝の先端まで樹木の栄養や水分がいきわたることができます。そのために、枝が込み合っている箇所を中心に剪定します。

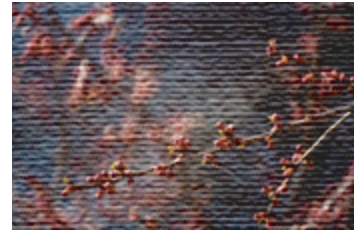
この剪定がかなり大変で、正しく剪定をしないと、その樹全体を弱らせてしまうことになります。なので、じっくり時間をかけて行います。



春 (4月~5月)：摘蕾 (てきらい)、摘果 (てきか)、交配作業

4月ごろになると、摘蕾 (てきらい) を行います。摘蕾とは、つぼみのうちに花を摘み取って、開花する花の数を減らす作業です。花の数を減らすことで、必要以上に果実がなることを防ぎ、実が小さくなるだけではなく、樹全体が弱ることを防ぐことができます。

摘果 (てきか) は、果実がなり始めた時点で、実の小さい (生育の悪い) ものを摘み取ることで、残った果実に栄養を十分に与え、樹木への負担を減らす作業です。この作業をおこなうことで、果実の味が濃厚になります。



夏 (7月)：収穫

6月末頃から、赤く色づいたものから順次収穫をします。

収穫は、できるだけ実の負担がかからないように、丁寧に行わなければなりません。

採り頃はそれぞれの樹で異なるので、採り頃を間違えると味の乗っていない酸っぱいサクランボを収穫することになります。



選果

収穫したら、すぐさま選果作業となります。

大きさと色付きを一個ずつ確認して、作業を行います。ここで、少しでも傷がついているものはそこから傷みが出てくるため、はじかなければいけません。

選果ができれば、出荷します。これを1か月毎日続けます！



交配作業

4月下旬から5月上旬になるとさくらんぼの花が満開になります。さくらんぼの花が満開になると、ミツバチやマメコバチのハチの巣箱をさくらんぼ畑に置くことで、ハチによる交配作業をおこないます。サクランボは、自分と違う品種でないと、交配をしない習性があります。ハチは、品種に関係なくミツを集めて飛び回り、ミツをもらうかわりに他のさくらんぼの花から花粉を運ぶため、交配作業には欠かせません。

この時期の天候がさくらんぼの生育に大きく影響します。晴れて暖かく風もないときは、ハチは喜んで花から花へと飛び回りますが、寒かったり雨が降るとハチは飛びませんから、その際には、私たちはハチにかわって毛バタキ (水鳥などの羽毛で作ったもの) で人工的に交配作業を行わなければならないため、とても忙しくなります。



夏 (6月)：収穫準備

ビニールハウスの設置

6月になると、収穫準備に入ります。6月中旬位になると実が大きくなりますが、その時に雨にあたると、実が割れる恐れがあります。

この「割れ」を防ぐために、雨除けのビニールを設置します。これが設置されると、収穫まであと少しなのです。



上記の通り、サクランボの樹を1年を通じてメンテナンスをすることで、おいしい果実を皆さんに提供しております。かなりの手間がかかっているサクランボですが、それだけの価値がある味になっています！ぜひこの機会にサンユー農産のサクランボをお試しください。

秋 (8月~11月)：冬支度

収穫が終わると、サクランボの樹はかなり弱っているため回復させるための作業をおこないます。まず、ビニールハウスは、下の温度が高く高湿状態になるため、樹に相当の負担がかかります。そのため、収穫の終了と同時にビニールハウスを撤去することで、樹への負担を減らします。次に、栄養を補給するために、土に肥料をまきます。これを行わないと、樹は果実として生った分の栄養を補給することはできません。

その後は、草刈りを中心に病気が発生しないように、適宜メンテナンスを行います。

健康村

ポポルの里から

最新情報は

Facebook



でも発信中!



サンユー農産 フェイスブック

検索

<https://facebook.com/korop.niki/>
ホームページ <http://www.korop.com>

有限会社 サンユー農産 〒063-0824 札幌市西区発寒4条4丁目9-24 TEL ☎0120-560-963 FAX 011-668-1187